

デザイン専攻 ファッションテキスタイル研究領域

ウンノ サクラコ

海野 桜子



変容するわたし

半紙、蠟

変容するわたし

本研究は、「わたしとは何か」という問いを起点に、他者や環境との関係の中で形づくられ、変わり続ける「わたし」の在り方を模索し、衣服造形と空間演出によって表現を行う事を目的とする。

現代社会では、ソーシャルメディア（以降 SNS）の普及により、他者の価値観や日常の営みの様子に触れ、多くの人が自身の理想的人物像に近づくために演出し、作りだされた「わたし」を SNS に投稿する状況が広がっている。その中で形成される「わたし」は、固定されたものではなく、他者の視線や評価、身を置く環境に大きな影響を受けながら、常に変化し続ける存在でもある。

本研究では、「わたしとは何か」を探求するために、他者や環境から認識されることで形づくられる「自己」と、それに影響を受けながら内側で変化し続ける「自我」を区別して捉え「わたしとは、自己によってかたちを与えられ、内なる自我は変容する存在」という思索を立て考察をすすめた。

本研究を通して、「わたしとは変容し続ける存在である」という理解に至った。変容とは、何かを失うことではなく、自分を更新し続けることで社会との関係性を編み直し、自らの可能性を広げていく営みであると考えられる。その過程において自我は一様なものではなく、経験や他者との関係を重ねることで層を成し、深みを増していく。本作品は、そのように更新され続ける「わたし」の在り方を衣服造形として提示する。

表現には、半紙と蠟を用いた。それぞれ半紙を自己、蠟を自我の象徴として捉えた。外部からの作用を受け止める半紙と、溶けて形を変え続ける蠟を重ねることで、思考や価値観が付着し、変形していく過程を造形として可視化している。また、造形に用いた 5 千枚以上の「ねじれ」は、自分とは異なる他者の価値観を指し、その関係の中で起こる適応の痕跡として用いた。これらの造形が身体を覆い、動くことで変容そのものを表現した。